

俳句を作ろう ②

ニッジャージー補習授業校 (平成24年11月3日)

【どのように作るのか】

この実践は、岐阜県池田町立音知小学校教諭 高木恵理先生から学びました。

『国語教育』第745号 平成24年2月号 明治図書

① 感動の瞬間を切り取ります (「いつの」ことだけ書くことを絞ります。)

感動は、「うれしかった」「たのしかった」「かっこいい」「おどろいた」「かなしかった」「くやしかった」「なるほどな」「不思議だ」など、できごとを通して、心にぐっと迫ってきた感情です。

まず大切なことは、**普段の生活の中(当たり前前の生活の中)で、感動したことを見つけること**です。

【例】

* 習い事 ↓ 野球、テニス、ダンス、サッカー、習字、ピアノなど

* 家族 ↓ 一緒にしたこと、家族の病気、家族の仕事、飼っている動物など

* 友だちのこと ↓ けんかしたこと、友だちのことばなど

* 自然や草花 ↓ 季節の移り変わり、鳥の鳴き声、月、花、草、せみ、風など

② 次に、ア、イ、ウ、エの視点で思いつくことを箇条書きさせます。

ア、うれしかったこと、たのしかったこと

イ、くやしかったこと、かなしかったこと

ウ、おどろいたこと

エ、かっこいい、きれいだ、見つけたよ

③ そして、五・七・五のリズムで俳句を作ります。表現します。

ア、○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○
うれしいな

イ、○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○
くやしいな

ウ、○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○
おどろいた

エ、○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○
きれいだな

④ 例えば、次のような作品ができました。

ア、さかあがりつつぜんできて
うれしいな

イ、さかあがりぜんぜんできず
くやしいな

ウ、ゆめの中一人で走る
おどろいた

エ、お父さん星を見てみて
きれいだな

「いつ」で思い出してください。作文で、「美しい」「楽しい」「楽しい」などの言葉を使わず、本人の動作や周りの様子を書く方が、ずっと効果的であるということを何度もお知らせしました。俳句でも同じです。この法則は、俳句でも生きています。ではどうすればいいのでしょうか？

⑤ 最後に「□の」「うれしいな」「くやしいな」「おどろいた」「きれいだな」に季語(季節のことば)を入れます。(置き換えます)。できあがりです。

ア、さかあがりつつぜんできて
いwash雲

イ、さかあがりぜんぜんできず
秋の風

ウ、ゆめの中一人で走る
体育の日

エ、お父さん星を見てみて
秋の夜

このように五段階で作ると誰でも俳句が作れるのです。(続く)